

ろんご

『論語』

しいは(ワ)

子曰く、

おのれ ほつ

ところ

ひと

ほどこ

なか

「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。」

孔子こうし言う。「自分じぶんがしてほしくないと思おもうようなことを、他人たにんにしおけてはならぬ。」

あやま

あらた

これ

あやま

い

「過ちて改めざる、是を過ちと謂う。」

孔子こうし言う。「人ひとは何人なにびとといえども過あやまちのあるものであるが、過あやまちを犯おかして改あらためないのが、ほんとうの過あやまちというものだ。」

まな

おも(わ)

すなわ

くら

おも(い)

まな

「学まなびて思おもはざれば、則すなわち罔あやうし。思おもひて学まなばざれば、

則すなわち殆あやうし。」

「博ひろく学まなぶだけで、自分じぶんの心こころで思おもいめぐらしてよく考かんえ、よくその理ことわりをもとめてみないと、学まなんだことことがぼんやりして、その道どう理りをつかむことはできない。之これに反はんして、自分じぶんの乏とほしい知ち識しきで思おもいめぐらすだけ、博ひろく他人たにんの言ことばや古こ人の教おしえを学まなぶことをしないと、考かんえ方が狭せまく、一方いっぽうに偏かたよって、危き険けんの上うえもないものだ。」